

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-159239
(43)Date of publication of application : 04.06.2002

(51)Int.CI. A01K 29/00
A01K 1/03
A01K 1/035
B60P 3/04
// B65D 6/18

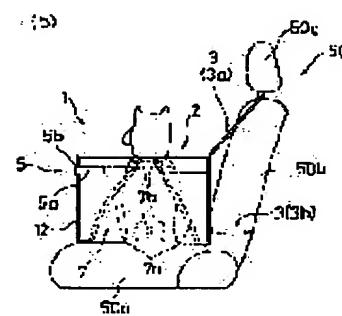
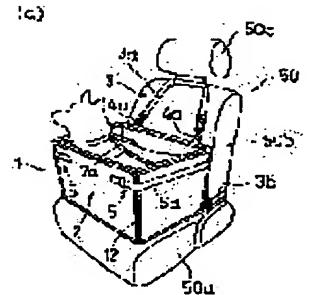
(21)Application number : 2000-361710 (71)Applicant : IRIS OHYAMA INC
(22)Date of filing : 28.11.2000 (72)Inventor : HATAKE JUNKO

(54) ON-BOARD CASE FOR PET

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an on-board case for a pet capable of readily achieving the prevention of fouling in the interior of a car and preventing a risk on the driving of the vehicle or the pet itself.

SOLUTION: This on-board case 1 for the pet comprises a box body 2 capable of being developed and assembled for housing the pet, a detachable member 12 for mutually fixing the bottom and lateral faces of the box body 2, a fixing auxiliary member 5 for checking the release of fixing with the detachable member 12, a mooring member 7 for mooring the pet in the box body 2 and a fixing member 3 for fixing the housing body 2 on a seat 50. The mooring member 7 is provided with plural fixing rings 7d, beltlike members 7a, connecting members 7b and connecting members 7c. The beltlike members 7a are set at a smaller length than that of diagonal lines of the base 2a. When the pet is moored from the back side with the two mooring members 7, the pet can be prevented from jumping out to the outside. When a first belt member 3a and a second belt member 3b of the fixing member 3 are stretched over the seat 50, the housing body 2 can be brought into close contact and fixed on the seat 50.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-159239

(P2002-159239A)

(43) 公開日 平成14年6月4日(2002.6.4)

(51) Int. C1.⁷

識別記号

F I

テマコート(参考)

A 0 1 K 29/00

A 0 1 K 29/00

2B101

1/03

1/03

Z 3E061

1/035

1/035

Z

B 6 0 P 3/04

B 6 0 P 3/04

// B 6 5 D 6/18

B 6 5 D 6/18

L

審査請求 未請求 請求項の数 20 O L

(全13頁)

(21) 出願番号

特願2000-361710(P2000-361710)

(71) 出願人 391001457

アイリスオーヤマ株式会社

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

(22) 出願日

平成12年11月28日(2000.11.28)

(72) 発明者 畠 純子

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

アイリスオーヤマ株式会社内

(74) 代理人 100081318

弁理士 羽切 正治

F ターム(参考) 2B101 AA13 AA20 GA01 GA03

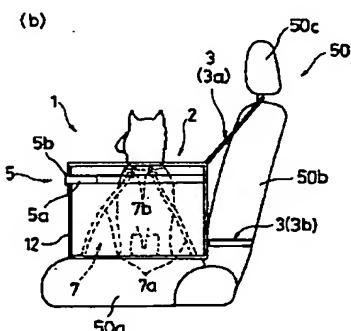
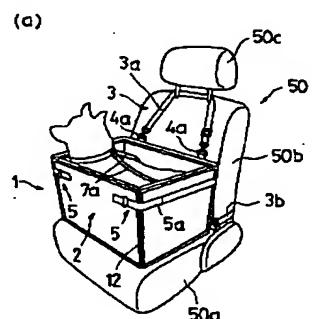
3E061 AA30 CA09 DA06 DB20

(54) 【発明の名称】ペット用車載ケース

(57) 【要約】

【課題】 車内の汚損防止を容易に達成可能であり、車両の運転やペット自体に対する危険を防止可能なペット用車載ケースを提供すること。

【解決手段】 ペット用車載ケース1は、展開、組立可能な状態でペットを収容する箱体2、箱体2の底面及び側面同士を互いに固定する着脱部材12、着脱部材12による固定が解除されることを抑止する固定補助部材5、ペットを箱体2内に係留する係留部材7、箱体2を座席50上に固定する固定部材3を有する。係留部材7は、複数の固定リング7d、帯状部材7a、連結部材7b及び連結部材7cを有する。帯状部材7aを底面2aの対角線の長さより小に設定し、ペットを2つの係留部材7により背後側から係留すれば、ペットの外部への飛び出しを防止可能である。また、固定部材3の第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bを座席50に掛け回せば、箱体2を座席50上に密着固定することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する箱体と、

前記箱体を車両の座席上に固定する固定部材とを有することを特徴とするペット用車載ケース。

【請求項2】 前記箱体は、前記底面及び前記側面同士を互いに固定する着脱部材を有することを特徴とする請求項1記載のペット用車載ケース。

【請求項3】 前記着脱部材による前記底面及び前記側面同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材を有することを特徴とする請求項2記載のペット用車載ケース。

【請求項4】 前記ペットを前記箱体内に係留する係留部材を有することを特徴とする請求項1乃至請求項3のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項5】 前記箱体は、前記底面及び前記側面にそれぞれ設けられた基材と、前記基材を被覆する被覆部材とを有することを特徴とする請求項1乃至請求項4のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項6】 前記箱体は、前記基材と前記被覆部材との間に設けられて衝撃を吸収する弹性材を有することを特徴とする請求項5記載のペット用車載ケース。

【請求項7】 前記箱体の内側に位置する前記弹性材の肉厚は、外側に位置する前記弹性材の肉厚より大であることを特徴とする請求項6記載のペット用車載ケース。

【請求項8】 前記固定補助部材は、前記箱体の上部に設けられ、第1の側面上に固定された固定ベルトと、第2の側面上に固定されて前記固定ベルトを挿通するリングとを有し、前記リングに挿通した前記固定ベルトの端部を前記第1の側面に向けて折り返して固定することを特徴とする請求項3記載のペット用車載ケース。

【請求項9】 前記係留部材は、前記箱体の内側に固定される帯状部材と、前記帯状部材の先端に設けられて前記ペットに対して連結される第1の連結部材とを有することを特徴とする請求項4記載のペット用車載ケース。

【請求項10】 前記係留部材は、前記箱体の内側に設けられた固定リングと、前記帯状部材の他端に設けられて前記固定リングに連結される第2の連結部材とを有し、前記固定リングは、互いに対向して複数設けられていることを特徴とする請求項9記載のペット用車載ケース。

【請求項11】 前記帯状部材は、長さが前記底面の対角線の長さより小であることを特徴とする請求項9又は請求項10記載のペット用車載ケース。

【請求項12】 前記固定部材は、前記箱体の外側に設けられて前記座席に掛け回される少なくとも1つのベルト部材を有することを特徴とする請求項1乃至請求項1のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項13】 前記固定部材は、前記箱体の前記側面上に設けられた一对の環状部材と、前記ベルト部材の両

端に設けられて各々前記環状部材に連結される結合部材とを有し、前記環状部材は、複数の前記側面上に設けられていることを特徴とする請求項12記載のペット用車載ケース。

【請求項14】 前記箱体は、前記座席の幅に応じて取付方向を設定可能であることを特徴とする請求項13記載のペット用車載ケース。

【請求項15】 前記ベルト部材を前記座席の背面側から掛け回すことを特徴とする請求項12乃至請求項14のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項16】 前記固定部材は、前記底面及び／又は前記側面上に設けられて前記座席のシートベルトを挿通する開口部を有することを特徴とする請求項1乃至請求項1のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項17】 前記固定部材は、前記箱体に対して固定されて前記座席の座部と背部との隙間に挿入される係止部材を有することを特徴とする請求項1乃至請求項1のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項18】 前記固定部材は、前記箱体に設けられた係合部材と、前記座席側に設けられて前記係合部材を係止する受け側部材とを有することを特徴とする請求項1乃至請求項1のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項19】 前記箱体は、該箱体の内部を覆う天面を有し、前記天面は網目状の孔部を有することを特徴とする請求項1乃至請求項18のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【請求項20】 前記底面の外側面上に滑り止め部材を有することを特徴とする請求項1乃至請求項19のうちいずれか1記載のペット用車載ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、犬や猫等のペットを収容して車両の座席上に固定可能なペット用車載ケースに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、犬や猫等のペットを自動車などの車両に乗せる場合には、車内に汚損防止用の敷物等を装着してこの敷物上にペットを乗せることや、運転者以外の者がペットを抱えた状態で乗車することが行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、車内に汚損防止用の敷物等を装着することは、手間がかかるものであり、犬や猫等のペットを乗車させる際に、容易に車内の汚損防止を図ることが求められている。

【0004】 また、ペットが車内を自由に移動可能な状態であると、車両の運転に重大な危険を及ぼす可能性があり、ペット自体に対しても危険な場合がある。

【0005】 本発明は、上記の点に鑑みてなされたもの

であって、自動車等の車両に犬や猫などのペットを乗せても車内の汚損防止を容易に達成可能であり、ペットを所定の位置に係留して、車両の運転やペット自身に対する危険を防止可能なペット用車載ケースを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明のペット用車載ケースは、少なくとも底面及び側面を有し展開、組立可能であってペットを収容する箱体と、前記箱体を車両の座席上に固定する固定部材とを有するものである。

【0007】また、前記箱体は、前記底面及び前記側面同士を互いに固定する着脱部材を有するものである。

【0008】また、前記着脱部材による前記底面及び前記側面同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材を有するものである。

【0009】また、前記ペットを前記箱体内に係留する係留部材を有するものである。

【0010】また、前記箱体は、前記底面及び前記側面にそれぞれ設けられた基材と、前記基材を被覆する被覆部材とを有するものである。

【0011】また、前記箱体は、前記基材と前記被覆部材との間に設けられて衝撃を吸収する弾性材を有するものである。

【0012】また、前記箱体の内側に位置する前記弾性材の肉厚は、外側に位置する前記弾性材の肉厚より大であるものである。

【0013】また、前記固定補助部材は、前記箱体の上部に設けられ、第1の側面上に固定された固定ベルトと、第2の側面上に固定されて前記固定ベルトを挿通するリングとを有し、前記リングに挿通した前記固定ベルトの端部を前記第1の側面に向けて折り返して固定するものである。

【0014】また、前記係留部材は、前記箱体の内側に固定される帯状部材と、前記帯状部材の先端に設けられて前記ペットに対して連結される第1の連結部材とを有するものである。

【0015】また、前記係留部材は、前記箱体の内側に設けられた固定リングと、前記帯状部材の他端に設けられて前記固定リングに連結される第2の連結部材とを有し、前記固定リングは、互いに対向して複数設けられているものである。

【0016】また、前記帯状部材は、長さが前記底面の対角線の長さより小であるものである。

【0017】また、前記固定部材は、前記箱体の外側に設けられて前記座席に掛け回される少なくとも1つのベルト部材を有するものである。

【0018】また、前記固定部材は、前記箱体の前記側面上に設けられた一対の環状部材と、前記ベルト部材の両端に設けられて各々前記環状部材に連結される結合部材とを有し、前記環状部材は、複数の前記側面上に設け

られているものである。

【0019】また、前記箱体は、前記座席の幅に応じて取付方向を設定可能であるものである。

【0020】また、前記ベルト部材を前記座席の背面側から掛け回すものである。

【0021】また、前記固定部材は、前記底面及び／又は前記側面上に設けられて前記座席のシートベルトを挿通する開口部を有するものである。

【0022】また、前記固定部材は、前記箱体に対して10固定されて前記座席の座部と背部との隙間に挿入される係止部材を有するものである。

【0023】また、前記固定部材は、前記箱体に設けられた係合部材と、前記座席側に設けられて前記係合部材を係止する受け側部材とを有するものである。

【0024】また、前記箱体は、該箱体の内部を覆う天面を有し、前記天面は網目状の孔部を有するものである。

【0025】また、前記底面の外側面上に滑り止め部材を有するものである。

20 【0026】

【発明の実施の形態】次に、本発明によるペット用車載ケースの第1の実施の形態について、図1乃至図5を参考して説明する。

【0027】図1は、本発明による第1実施例としてのペット用車載ケースの一部破断した状態を示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図、図2(a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す正面図、図2(b)は、図2(a)におけるA-A断面図、図3

30 (a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す側面図、図3(b)は、図3(a)におけるB-B断面図、図4は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す背面図、図5は、図1に示すペット用車載ケースを展開した状態を示す平面図である。

【0028】図1乃至図5に示すように、ペット用車載ケース1は、上面が開口した箱状に形成されて犬や猫等のペットを収容する箱体2と、箱体2を自動車等の車両の座席50(図7参照)上に固定する固定部材3(図3(a)及び図4参照)と、箱体2内に設けられて前記ペットを箱体2内に係留する係留部材7とを有する。以下、まず箱体2の詳細について、箱体2を展開した状態に基づいて説明する。

【0029】図5に示すように、箱体2は、底面2a及び側面2b乃至側面2eにそれぞれ設けられた基材22aと、基材22aを被覆する被覆部材22bと、基材22aと被覆部材22bとの間に設けられた弾性材22c(図1及び図2(b)参照)と、被覆部材22bの周縁に設けられて底面2a及び側面2b乃至側面2e同士を互いに固定する着脱部材12とを有する。したがって、箱体2は、基材22aを被覆部材22bで被覆することによって、底面2a及び側面2b乃至側面2eが境界部

で折り曲げ可能に形成され、展開及び組立が自在に可能である。

【0030】また、箱体2は、全体が被覆部材22bで被覆され、長方形状の底面2aと、底面2aの短手方向に隣接する側面2d（前面）と、側面2dに対向し、かつ底面2aの短手方向に隣接する側面2e（後面）と、側面2eに隣接し、かつ互いに対向する一対の側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）とからなり、底面2a及び側面2d乃至側面2eのそれぞれの隣接境界部が縫製されている。また、弾性材22cは、ポリウレタン樹脂等からなり、基材22aと被覆部材22bとの間に介装され、外部からの衝撃を吸収可能である。本実施の形態では、弾性材22cは、基材22を挟んで両面に介装されており、箱体2の内部側に位置する弾性材22cの肉厚dは、外部側に位置する弾性材22cの肉厚eより大きく設定されている。箱体2の内部側に位置する弾性材22cの肉厚dを大きく設定し、かつ箱体2の外部側にも弾性材22cを設けることにより、衝撃の吸収効果の向上が可能であり、ペット用車載ケース1全体の質感を向上して美的にも優れた外観を得ることができる。

【0031】箱体2の側面2d（前面）及び側面2e（後面）は、互いに等しい長方形状に形成され、側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）は、側面2e（側面2d）の短辺の長さ及び底面2aの短辺の長さに設定された長方形状に形成されている。したがって、箱体2は、組み立てた状態において、直方体の箱状に形成される。また、箱体2の幅W、すなわち底面2aの長辺の長さ（図1及び図5参照）は、ペット用車載ケースを取り付ける座席50（図7参照）上に取付可能な大きさに設定されている。本実施の形態では、幅Wが座席50の座部50a及び背部50bの幅に略等しく設定され、例えば柴犬、ウエルシュ・コーギー等の中型の犬種に好適な大きさに設定されている。

【0032】また、着脱部材12は、本実施の形態ではファスナからなり、側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）の周縁部と、これに対応する底面2a及び側面2d（前面）の両側部に各々一組ずつ設けられ、底面2a及び側面2b乃至側面2e同士を自在に着脱可能である。したがって、着脱部材（ファスナ）12を矢印P方向（図1及び図6参照）に引き上げれば、底面2a及び側面2b乃至側面2e同士を互いに固定して箱体2を容易に組み立て可能である。

【0033】基材22aは、箱体2全体の剛性を向上して、組み立てた状態の箱体2の形状を保持するものであり、底面2a及び側面2b乃至2eに対応した形狀に形成され、各々の面は、被覆部材22bにより基材22aを包み込んで縫製されている。なお、基材22aは、所定の剛性を有するものであれば、合成樹脂、紙材、木材及び金属等の種々の素材を適宜選択可能であるが、合成樹脂は軽量で強度が大きく、しかもペットが箱体2を噛

んだ場合でも悪影響を与える恐れがないことがないことから、基材22aの素材として好適である。

【0034】被覆部材22bは、基材22aを被覆して底面2a及び側面2b乃至側面2eを境界部で折り曲げ可能に形成し、箱体2を組立及び展開自在に構成するものであり、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の素材を適宜選択して使用することができる。本実施の形態では、被覆部材22bが綿製の織布から形成され通気性が確保されており、美的にも優れた外観を有する。

【0035】また、図1乃至図3に示すように、箱体2は、上部に着脱部材12による底面2a及び側面2b乃至側面2e同士の固定が解除されることを抑止する固定補助部材5を有する。固定補助部材5は、箱体2の側面2d（前面）の両側部に位置する着脱部材12としてのファスナに各々跨設され、側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）上に各々固定された固定ベルト5aと、側面2d（前面）の両側部に各々固定されたD字状のリング5bとを有し、固定ベルト5aの先端部をリング5bに挿通し、この先端部を側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）に向けて折り返して、各々側面2b及び側面2c上に固定可能である。固定ベルト5aを折り返して固定することにより、側面2d（前面）と側面2b（右側面）及び側面2d（前面）と側面2c（左側面）とを堅固に固定可能であり、箱体2内のペットによって、着脱部材12としてのファスナによる固定が解除される方向（図1及び図6に示す矢印Q方向）に力が加えられた場合でも、底面2a及び側面2b乃至側面2e同士の固定を保持することができる。なお、固定ベルト5aの先端部を側面2b及び側面2c上に固定する方法は適宜設定可能であり、例えば、固定ベルト5aの基端部近傍及び先端部に、いわゆるマジックテープ（商標名）を設ければよい。また、側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）を第1の側面、側面2d（前面）を第2の側面とも称する。

【0036】係留部材7は、犬や猫等のペットを箱体2内に係留する部材であり、箱体2の内側に設けられたD字状の固定リング7dと、固定リング7dを介して箱体2の内側に固定される帶状部材7aと、帶状部材7aの先端部に設けられてペットに対して連結される連結部材（第1の連結部材）7bと、帶状部材7aの他端に設けられて固定リング7dに連結される連結部材（第2の連結部材）7cとを有する。連結部材7b及び7cは、いわゆるナスカンと称される開閉自在な環状の部材からなり、例えばペットの首輪等に設けられたリング部材（図示せず）及び固定リング7dに対して着脱自在である。また、固定リング7dは、互いに対向する位置に複数設けられており、本実施の形態では、底面2aの互いに対向する短辺上に各々2つずつ離間して固定されている。

【0037】また、帶状部材7aは、所定の範囲で長さを調整可能であり、帶状部材7aの長さを底面2aの対

角線の長さより小さく設定するとともに、ペットを側面2b（右側面）又は側面2c（左側面）を頭部にして収容し、2本の帯状部材7aによりペットを背後側から係留すれば、ペットが箱体2の外部に飛び出すことがなく、好適である。すなわち、固定リング7dを互いに対向する位置に複数有することから、ペットを収容する方向は、適宜選択が可能であり、ペットの嗜好に応じて設定することができる。なお、使用する帯状部材7aの固定リング7dに対する取付位置は、適宜変更可能であり、例えば、2本の帯状部材7aを底面2aの対角線に沿って互いに対向して設ければ、ペットを係留部材7によって互いに対向する二方向から均一に係留することができ、ペットが箱体2の外部に飛び出すことがない。また、使用する帯状部材7aの数は、適宜増減が可能である。

【0038】図3（a）及び図4に示すように、固定部材3は、箱体2の外側、この場合側面2e（後面）の外側上部に互いに離間して設けられた一対の環状部材

（第1の環状部材）4aと、側面2e（後面）の外側下部に互いに離間して設けられた一対の環状部材（第2の環状部材）4bと、第1の環状部材4a同士の間に連結されて座席50の頭部50c（図7参照）に掛け回される第1のベルト部材3aと、第2の環状部材4b同士の間に連結されて座席50の背部50b（図7参照）に掛け回される第2のベルト部材3bとを有する。第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bは、各々両端に結合部材14aを有し、この結合部材14aを介して、それぞれ第1の環状部材4a及び第2の環状部材4bに連結されている。結合部材14aは、いわゆるナスカンと称される開閉自在な環状の部材からなり、第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bは、第1の環状部材4a及び第2の環状部材4bに対して着脱自在である。また、第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bは、所定の範囲で長さを調整可能であり、第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bを座席50（図7参照）に掛け回して緊張させれば、箱体2を座席50に対して密着固定することができる。

【0039】なお、本実施の形態では、固定部材3にベルト部材を複数（第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3b）設けているが、ベルト部材は少なくとも1つ設ければよく、適宜増減が可能である。また、第1のベルト部材3a及び第2のベルト部材3bを掛け回する座席50（図7参照）の部位についても、適宜変更可能である。

【0040】次に、上記の構成からなるペット用車載ケース1の使用形態について、図6（a）乃至図7（b）を参照して説明する。図6（a）及び（b）は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てる工程を示す斜視図、図7（a）は、図1に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、図7（b）は、図1

に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。

【0041】まず、箱体2を組み立てる工程について説明する。図6（a）及び（b）に示すように、着脱部材（ファスナ）12を矢印P方向に引き上げれば、底面2aと側面2b（右側面）、側面2b（右側面）と側面2d（前面）並びに、底面2aと側面2c（左側面）、側面2c（左側面）と側面2d（前面）とを互いに固定して箱体2を展開した状態から容易に組み立て可能である。

10 そして、固定補助部材5の固定ベルト5aの先端部をリング5bに挿通し、第1の側面としての側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）側に各々折り返して固定することにより、箱体2の組立が完成する。また、組み立てた状態の箱体2を展開する場合には、固定ベルト5aの固定を解除し、着脱部材（ファスナ）12を矢印Q方向（矢印Pと逆方向）に移動すれば、底面2a及び側面2b乃至側面2e同士の固定を解除して容易に展開可能であり、ペット用車載ケース1は、持ち運びや収納時の利便性が高い。なお、箱体2を完全に組み立て20 ず、一部の面を開放した状態で使用することも可能であり、例えば、側面2d（前面）のみを開放すれば、ペットを箱体2内に収容する場合や、降車させる場合の利便性を向上することができる。

【0042】次に、ペット用車載ケース1を自動車等の車両の座席上に固定する工程について説明する。図7（a）及び（b）に示すように、座席50上に組み立てた状態の箱体2を側面2e（後面）が背部50bと当接するように載置する。そして、固定部材3の第1のベルト部材3aを座席50の頭部50cに掛け回し、第2のベルト部材3bを背部50bの下部に掛け回して、各々の長さを調整して緊張させれば、箱体2を座席50に対して密着させた状態で固定することができる。

【0043】そして、犬や猫等のペットを側面2b（右側面）又は側面2c（左側面）側を頭部にして箱体2内に収容し、連結部材（第1の連結部材）7bをペットの首輪に設けられたリング部材（図示せず）に連結してペットを2本の係留部材7により係留する。このとき、帯状部材7aの長さを底面2aの対角線の長さより小さく設定し、連結部材7c（第2の連結部材）をペットの背後側に位置する固定リング7dに連結すれば、ペットは2本の係留部材7により背後側から係留される状態になり、ペットの箱体2の外部への飛び出しを防止することができる。また、固定リング7dは、互いに対向する位置に複数設けられていることから、ペットを収容する方向は、頭部が側面2b（右側面）に位置する方向又は側面2c（左側面）側に位置する方向から適宜選択することができ、ペットの嗜好に応じて設定が可能である。

【0044】また、ペット用車載ケース1は、着脱部材（ファスナ）12に跨設され、側面2b（右側面）及び側面2c（左側面）と、側面2d（前面）とを固定する

9

固定補助部材 5 を有することから、箱体 2 内のペットによって、着脱部材（ファスナ）12 による固定が解除される方向（図 1 及び図 6 に示す矢印 Q 方向）に力が加えられても、底面 2a 及び側面 2b 乃至側面 2e 同士の固定を保持することができる。

【0045】次に、本発明によるペット用車載ケースの第2の実施の形態乃至第4の実施の形態について、図8乃至図10を参照して説明する。図8は、本発明による第2の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す底面図、図9は、図8に示すペット用車載ケースの使用形態を示す斜視図、図10(a)は、本発明による第3の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図、図10(b)は、本発明による第4の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図である。なお、本発明による第2の実施の形態乃至第4の実施の形態は、本発明の第1の実施の形態と固定部材3の構成のみが異なるものであり、他の構成については同一であることから、以下の説明においては、相違点を中心に説明する。また、図8乃至図10において、第1の実施の形態と同一の構成及び機能を有する部分には、同一の符号を付している。

【0046】図8及び図9に示すように、本発明による第2の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、車両の座席50(図7参照)が有するシートベルト51を使用して座席50上に固定するものである。固定部材13は、箱体2の底面2a上に設けられ、シートベルト51を挿通する開口部13aを有する。

【0047】開口部13aは、被覆部材22bと同一の素材からなり、側面2d（前面）側から側面2e（後面）に向けて拡幅する台形状に形成されている。また、開口部13aは、側面2d（前面）側及び側面2e（後面）の両端部が縫製され底面2aに対して固定され、両端部間に開口した構成になっている。したがって、図9に示すように、シートベルト51を開口部13aに挿通して固定すれば、座席50（図7参照）上にペット用車載ケース1を密着固定することが可能であり、しかも座席50が有するシートベルト51を利用可能であることから、ペット用車載ケース1全体の低コスト化を達成することができる。

【0048】なお、シートベルト51が、ELR（緊急ロック式ベルト巻き取り装置）付3点式シートベルトである場合には、図9に示す結束金具52を使用して、シートベルト51の肩側ベルト51aと腰側ベルト51bとを結束して固定すれば、シートベルト51の固定金具51cと結束金具52との間の長さが一定になり、箱体2を座席50上に堅固に固定することができる。また、開口部13aを設ける位置及び数は、適宜設定可能であり、側面2b乃至側面2e上に設けてもよい。

【0049】また、図10(a)に示すように、本発明による第3の実施の形態としてのペット用車載ケース1

10

20

30

49

5

が備える固定部材 23 は、側面 2e (後面) 側の下端部に固定された帯部材 23b と、帯部材 23b の先端部に固定された係止部材 23a とを有する。係止部材 23a は、合成樹脂等からなり、円筒状 (又は円柱状) に形成されている。そして、係止部材 23a を座席 50 の座部 50a と背部 50b との間の隙間に挿入し、係止部材 23a を 90 度回転させて円筒軸が直立する状態にすれば、ペット用車載ケース 1 を座席 50 上に固定することが可能であり、座席 50 に対するペット用車載ケース 1 の固定をより容易に行うことができる。

【0050】また、図10(b)に示すように、本発明による第4の実施の形態としてのペット用車載ケース1が備える固定部材33は、側面2e(後面)側の下端部に固定された一对の係合部材33aと、係合部材33aに対応して車両の座席50側に固定された受け側部材33bとを有する。係合部材33aは、金属又は合成樹脂等からなり、箱体2から突出する状態に設けられている。また、受け側部材33bは、座席50の座部50aと背部50bとの間の隙間に設けられており、係合部材33aを固定する係止機構を有する。したがって、係合部材33aを受け側部材33bに嵌合させれば、ペット用車載ケース1を座席50上に固定することが可能であり、座席50に対するペット用車載ケース1の固定をより容易に、しかも確実に行うことができる。

【0051】次に、本発明によるペット用車載ケースの第5の実施の形態及び第6の実施の形態について、図11及び図12を参照して説明する。図11は、本発明による第5の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図、図12は、本発明による第6の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す一部破断した状態の斜視図である。なお、本発明による第5の実施の形態及び第6の実施の形態は、本発明の第1の実施の形態と基本構成が同一であることから、以下の説明では相違点を中心に説明する。また、図11及び図12において、第1の実施の形態と同一の構成及び機能を有する部分に同一の符号を付している。

【0052】図11に示すように、本発明による第5の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、箱体2に内部を覆う天面43と、天面43を箱体2の上端に固定する閉止部材45とを設けたものである。天面43は、箱体2の上面の開口より僅かに大きく形成され、全面に網目状の孔部43aを有する。また、閉止部材45は、いわゆるマジックテープ（商標名）等からなり、天面43の前端部に設けられた舌片部45aと、側面2d（前面）の上端部に舌片部45aに対応して設けられ舌片部45aを固定する固定部45bとを有する。したがって、天面43を閉止部材45により箱体2の上端に係合した状態で固定すれば、箱体2の開口全体を覆うことが可能であり、箱体2に収容したペットが外部に飛び出すことをより確実に防止可能である。また、天面43は、

網目状の孔部43aを有することから、箱体2内の照度や、通気性を確保可能であり、ペットに対する居住性を向上することができる。

【0053】また、図12に示すように、本発明による第6の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、複数（この場合4つ）の係留部材7を十字状に設けたものである。係留部材7は、各々箱体2の内側に固定された帯状部材7aと、帯状部材7aの先端部に設けられてペットに対して連結される連結部材7bとを有し、それぞれ側面2b乃至側面2eの中央部であって底面2aとの境界部において箱体2に対して固定されている。係留部材7を設ける数や位置は、任意に設定可能であるが、複数の係留部材7を十字状に設けることによって、ペットを四方向から均等に係留して、箱体2の外部にペットが飛び出すことを確実に防止することができる。

【0054】次に、本発明によるペット用車載ケースの第7の実施の形態及び第8の実施の形態について、図13乃至図15を参照して説明する。図13（a）は、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す正面図、図13（b）は、（a）に示すペット用車載ケースの側面図、図13（c）は、（a）に示すペット用車載ケースの背面図、図14（a）は、図13に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、図14（b）は、図13に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図、図15

（a）は、本発明による第8の実施の形態としてのペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、図15（b）は、本発明による第8の実施の形態としてのペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。なお、本発明による第7の実施の形態及び第8の実施の形態は、本発明の第1の実施の形態と基本構成が同一であることから、以下の説明では相違点を中心説明する。また、図13乃至図15において、第1の実施の形態と同一の構成及び機能を有する部分に同一の符号を付している。

【0055】図13及び図14に示すように、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、箱体2の幅W、すなわち底面2aの長辺の長さがゴールデンレトリバーやダルメシアン等の大型の犬種に好適な大きさに設定されている。このように、箱体2を大型に形成すると、箱体2の幅Wが座席50の座部50a及び背部50bの幅より大きくなる場合があるが、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、箱体2の複数の側面上に環状部材4a及び環状部材4bを有し、座席50の幅に応じて箱体2の取付方向を適宜設定可能なものである。

【0056】図13（b）及び（c）に示すように、ペット用車載ケース1は、箱体2の側面2e（後面）及び側面2b（右側面）の外側上部に、それぞれ互いに離間して設けられた一対の環状部材（第1の環状部材）4

aを有し、これに対応して、側面2e（後面）及び側面2b（右側面）の外側下部に互いに離間して設けられた一対の環状部材（第2の環状部材）4bを有する。したがって、図14（a）及び（b）に示すように、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、側面2b（右側面）が背部50bと当接する状態で座席50に対して固定可能であり、箱体2の奥行きD、すなわち底面2aの短辺の長さを座席50上に取付可能な大きさに設定すれば、大型の箱体2を座席50上に堅固に固定することができる。

【0057】なお、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、側面2e（後面）と側面2b（右側面）との境界部に設けられた環状部材（第2の環状部材）4bについては、側面2e及び側面2bの両面に兼用されており、低コスト化が達成されている。また、環状部材4a及び4bを設ける部位は、適宜設定可能であり、側面2b乃至側面2eのうち2以上の複数の側面に設ければ、箱体2の取付方向を座席50の幅に応じて適宜選択可能であり、利便性を向上することができる。

【0058】また、図15（a）及び（b）に示すように、本発明による第8の実施の形態としてのペット用車載ケース1は、箱体2の幅W、すなわち底面2aの長辺の長さが図13及び図14に示す本発明の第7の実施の形態よりさらに大きく設定され、車両の後部座席60上に固定する場合に好適なものである。

【0059】すなわち、本発明による第8の実施の形態としてのペット用車載ケース1の固定部材53は、底面2aの外面上であって側面2c（左側面）との境界部近傍に両端が固定された長尺の第1のベルト部材53aと、側面2cの外側下部に連結された第2のベルト部材53bとを有する。したがって、箱体2の側面2b

（右側面）を後部座席60の背部60bと当接する状態に載置し、側面2c（左側面）側に位置する座席50の頭部50cに対して背面側から第1のベルト部材53aを掛け回すとともに、座席50の背部50bに対して背面側から第2のベルト部材53b掛け回して第1のベルト部材53a及び第2のベルト部材53bを緊張させれば、箱体2を座席60上に固定することができる。このとき、箱体2を後部座席60に対して前方に位置する座席50の背面側に当接させれば、箱体2は、前側の座席50と後部座席60との間に挟持された状態で堅固に固定される。

【0060】なお、上記に限らず本発明によるペット用車載ケース1の構成は、適宜変更可能であり、例えば、第1の実施の形態乃至第8の実施の形態を適宜組み合わせた構成であってもよい。また、本発明による第1の実施の形態乃至第8の実施の形態としてのペット用車載ケース1において、底面2aの外側面上に合成樹脂、合成ゴム等からなる滑り止め部材を設ければ、ペット用車載

ケース1の座席50又は後部座席60(図7、図10、図14及び図15参照)に対する固定効果の向上が可能であり、好適である。

【0061】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のペット用車載ケースによれば、自動車等の車両に犬や猫などのペットを乗せても車内の汚損防止を容易に達成可能であり、ペットを所定の位置に係留して、車両の運転やペット自体に対する危険を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による第1実施例としてのペット用車載ケースの一部破断した状態を示す斜視図であり、枠線内は部分拡大図である。

【図2】(a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す正面図、(b)は、(a)におけるA-A断面図である。

【図3】(a)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す側面図、(b)は、(a)におけるB-B断面図である。

【図4】図1に示すペット用車載ケースを組み立てた状態を示す背面図である。

【図5】図1に示すペット用車載ケースを展開した状態を示す平面図である。

【図6】(a)及び(b)は、図1に示すペット用車載ケースを組み立てる工程を示す斜視図である。

【図7】(a)は、図1に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、(b)は、図1に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。

【図8】本発明による第2の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す底面図である。

【図9】図8に示すペット用車載ケースの使用形態を示す斜視図である。

【図10】(a)は、本発明による第3の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図、(b)は、本発明による第4の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図である。

【図11】本発明による第5の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す斜視図である。

【図12】本発明による第6の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す一部破断した状態の斜視図である。

【図13】(a)は、本発明による第7の実施の形態としてのペット用車載ケースを示す正面図、(b)は、(a)に示すペット用車載ケースの側面図、(c)は、(a)に示すペット用車載ケースの背面図である。

【図14】(a)は、図13に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す斜視図、(b)は、図13に示すペット用車載ケースを座席上に固定した状態を示す側面図である。

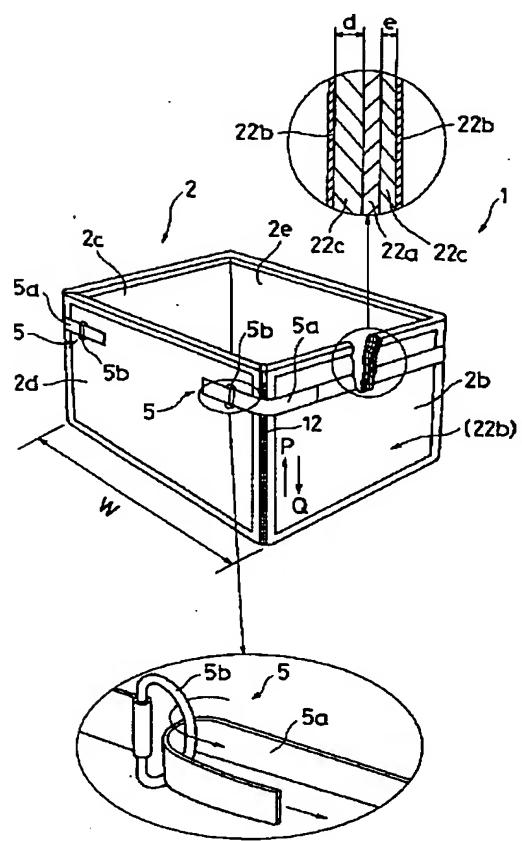
1	ペット用車載ケース
2	箱体
2 a	底面
10 2 b	側面(右側面、第1の側面)
2 c	側面(左側面、第1の側面)
2 d	側面(前面、第2の側面)
2 e	側面(後面)
3	固定部材
3 a	第1のベルト部材(固定部材)
3 b	第2のベルト部材(固定部材)
4 a	第1の環状部材(固定部材)
4 b	第2の環状部材(固定部材)
5	固定補助部材
20 5 a	固定ベルト
5 b	リング
7	係留部材
7 a	帯状部材
7 b	連結部材(第1の連結部材)
7 c	連結部材(第2の連結部材)
7 d	固定リング
1 2	着脱部材(ファスナ)
1 3	固定部材(第2の実施の形態)
1 3 a	開口部
30 1 4 a	結合部材(固定部材)
2 2 a	基材
2 2 b	被覆部材
2 2 c	弹性材
2 3	固定部材(第3の実施の形態)
2 3 a	係止部材
2 3 b	帯部材
3 3	固定部材(第4の実施の形態)
3 3 a	係合部材
3 3 b	受け側部材
40 4 3	天面(第5の実施の形態)
4 3 a	孔部
4 5	閉止部材(第5の実施の形態)
4 5 a	舌片部
4 5 b	固定部
5 0	座席
5 0 a	座部
5 0 b	背部
5 0 c	頭部
5 1	シートベルト
50 5 1 a	肩側ベルト

15

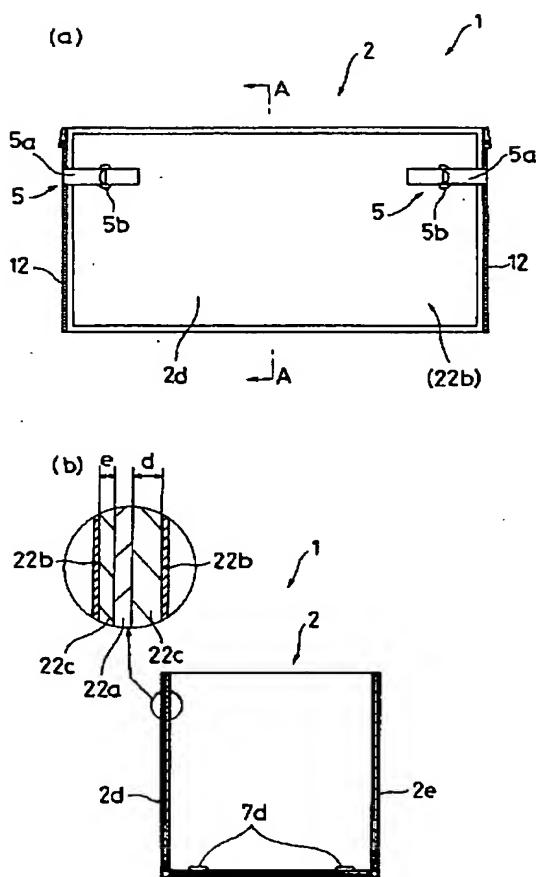
51b 腰側ベルト
 51c 固定金具
 52 結束金具
 53 固定部材 (第8の実施の形態)
 53a 第1のベルト部材

53b 第2のベルト部材
 60 後部座席
 60a 座部
 60b 背部
 60c 頭部

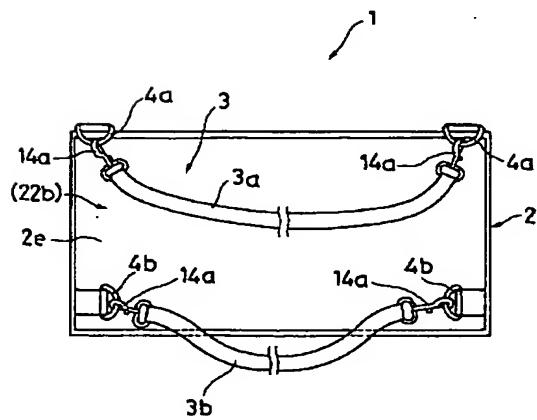
【図1】



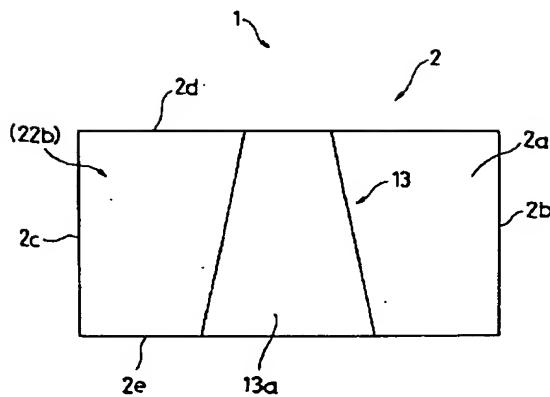
【図2】



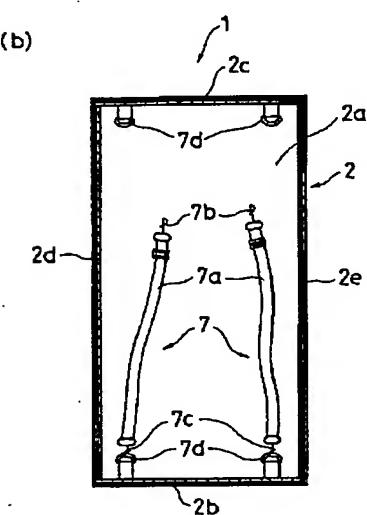
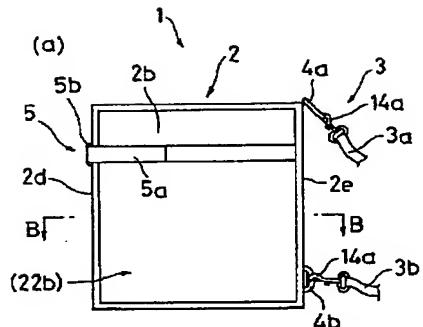
【図4】



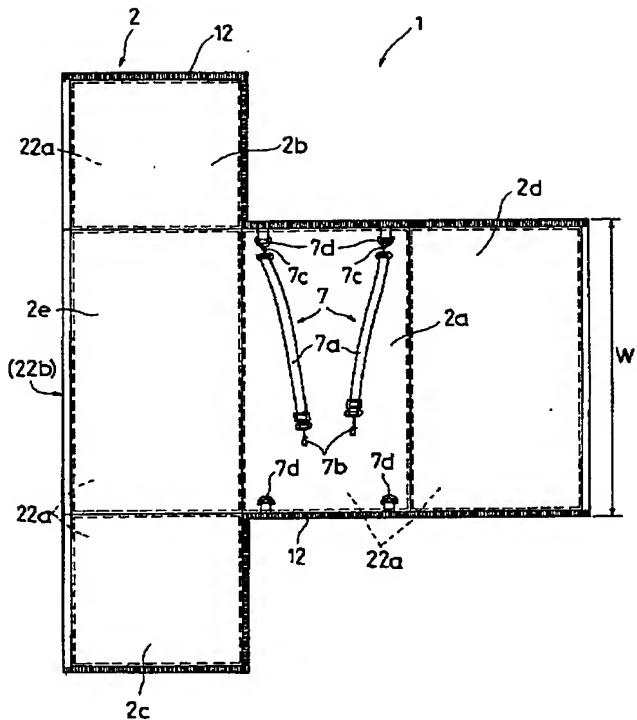
【図8】



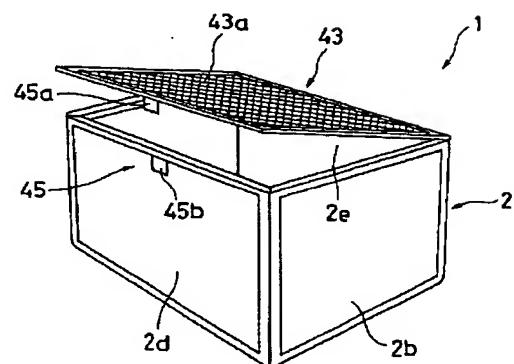
[図3]



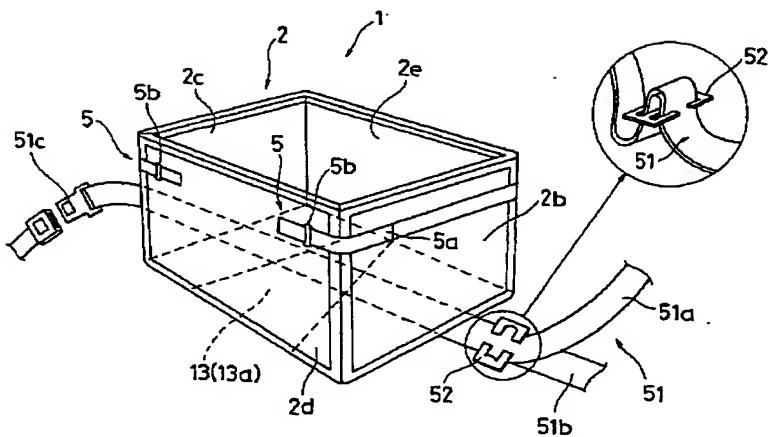
【図5】



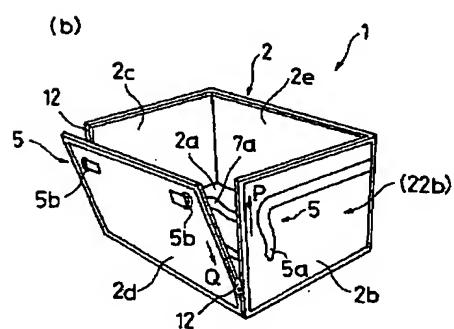
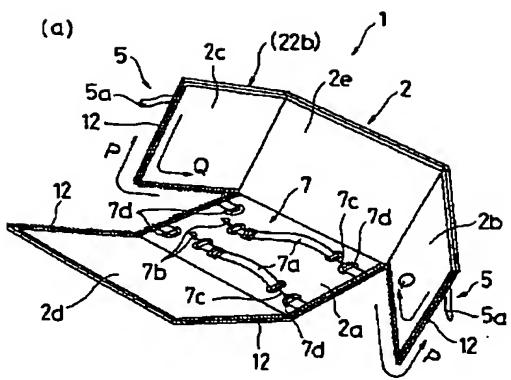
【图 11】



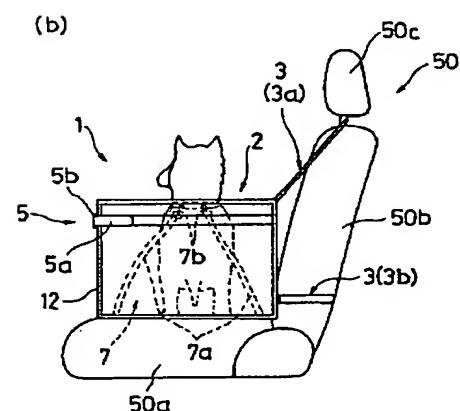
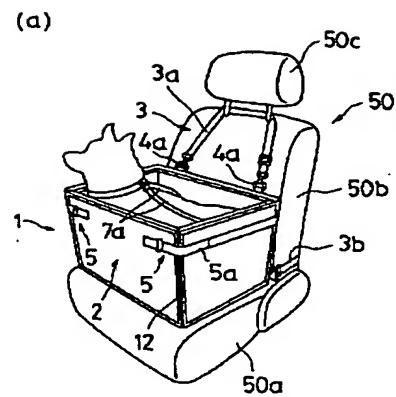
[図9]



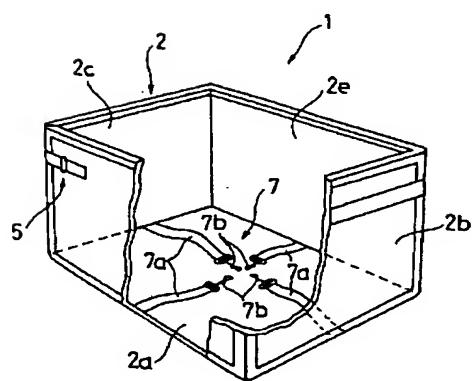
【図6】



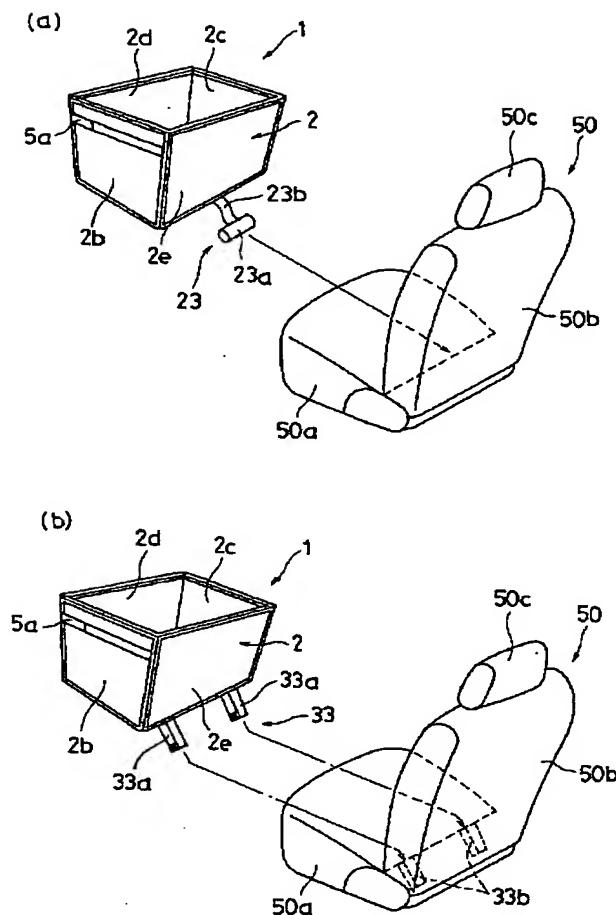
【図7】



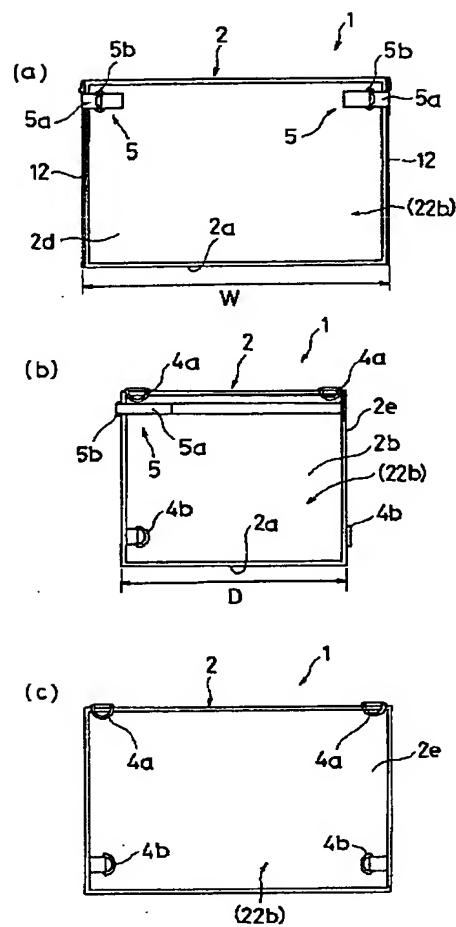
【図12】



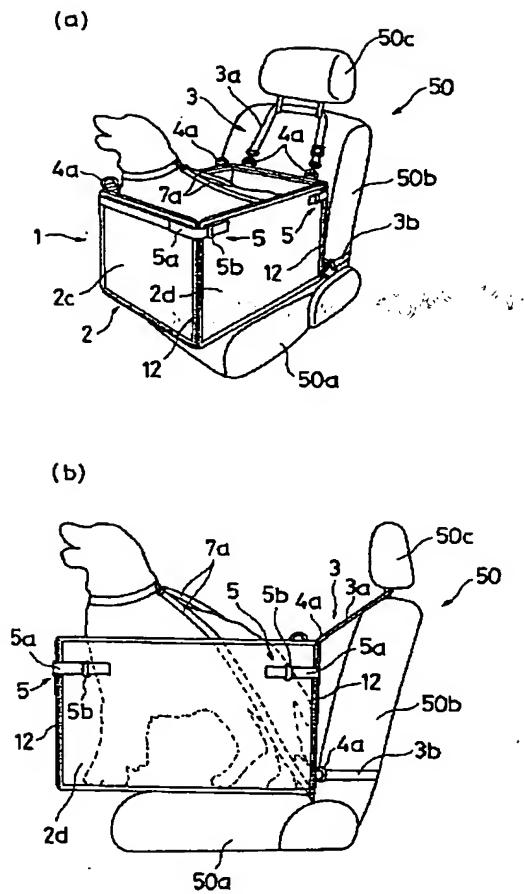
【図10】



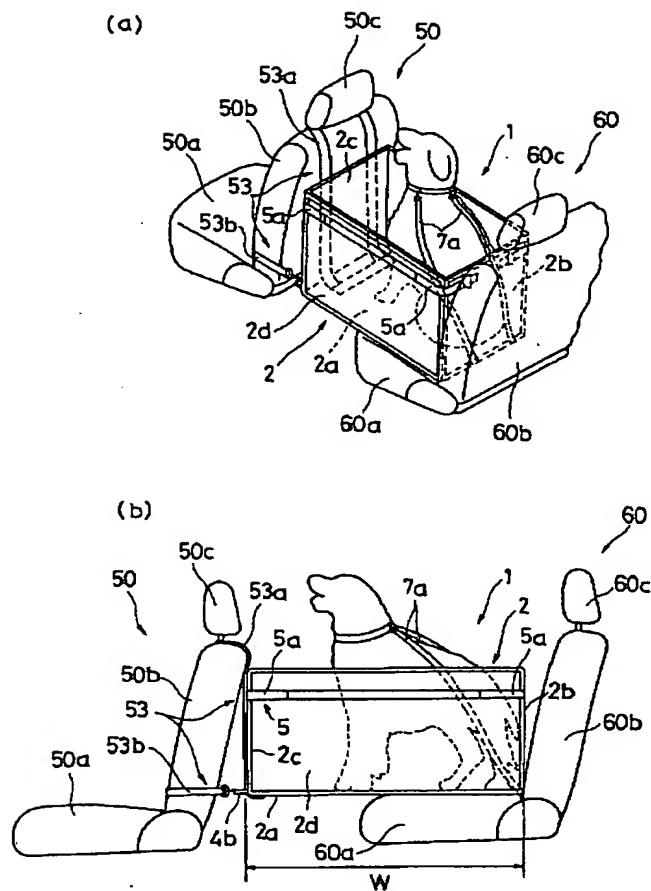
【図13】



【図14】



【図15】



THIS PAGE BLANK (USPTO)